

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370851

研究課題名(和文) アルカイック期ギリシアのアゴーンと民主政：言語的、身体的示威表象の展開と政治化

研究課題名(英文) Agon and emergence of democracy in archaic Greece: demonstration of power and status in language and body

研究代表者

高橋 秀樹 (Takahashi, Hideki)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：80236306

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：古代ギリシアの民主政は、アゴーンと呼ばれる、全社会的な競争原理を重要な基盤の一つとしている。これは運動競技や文芸活動など幅広く展開されていたものであるため、政治史的分析だけでは古代民主政成立過程を十分に解明することはできない。歴史学以外の研究分担者と協力し、伝承史料だけでなく、叙事詩などの文芸史料、立像・墓碑等画像史料を活用しつつ、古代民主政成立過程を、社会総体のダイナミズムという観点から複眼的・多角的に解明を進めた。

研究成果の概要(英文)：One of basic elements of the democracy in the ancient Greece was 'agon'. It meant competitive behavior in many area, not only political sphere but also gymnastic sphere and others. Therefore it is necessary for understanding the process of emergence of ancient Greek democracy to analyze classical texts like as heroic epics, images on tomb stone or gymnastic philosophy. These materials show the unique style of competitive behavior in ancient Greek society.

研究分野：西洋史

キーワード：西洋史 西洋古典学 体育学 美術史 比較史

### 1. 研究開始当初の背景

古代ギリシアにおける歴史の世界史的価値の一つは、市民社会と民主政が育まれたことにある。しかし、実態としては、近代的人権思想とは無縁な社会的前提のため、社会構成員の生命や活動の保全を訴えることが単独で効果的な政治的・社会的推進力になるとは限らず、むしろ、競争的な行動様式が社会全体に顕著に見られた。

従来の研究では、アルカイック期における民主政成立過程の研究というと、いきおい平民と「貴族」の闘争という側面から語られることが多かった。しかし、研究代表者は、競合する上層市民が、民主政の制度的枠組を、権力闘争の舞台として好都合なものを見た、という側面にも注意を払いながらこれまでの研究を進めて現在に至っている。また、競合関係を、下層・中層の住民層まで含んだ、かつ、政治的行為だけではない他の営みまで含んだ、広い社会的行動様式全体の中に位置付ける作業は、さらに開拓されるべき研究内容である。

他方、運動競技などについての先行研究では、競合行為の文化の社会総体の中での意義や、その民主政形成史との関係は、軽く触れられるだけで、十分に解析されているとは言えない。

このように、研究代表者のこれまでの研究からの発展軌道と、先行研究の不十分な領域とが交わる場所に、本研究の学術的背景があり、研究分担者と協力して実現するものである。

### 2. 研究の目的

古代ギリシアの民主政は人権思想等を前提とせず成立し、アゴーンと呼ばれる、全社会的な競合原理を重要な基盤の一つとしている。これは運動競技や文芸活動など幅広く展開されていたものであるため、政治史的分析だけでは古代民主政成立過程を十分に解明することはできない。歴史学以外の研究分担者と協力し、伝承史料だけでなく、叙事詩などの文芸史料、立像・墓碑等画像史料を活用しつつ、古代民主政成立過程を、社会総体のダイナミズムという観点から複眼的・多角的に解明する。史料が少ないアルカイック期の歴史研究に新たな可能性を拓く。

### 3. 研究の方法

本研究は3種の活動領域から成る：(a)文献研究(英雄叙事詩と競技祝勝歌を用いるアゴーン(競合行為)の分析)；(b)立像・画像史料(特に墓碑)及び写本史料(欧米各国博物館等に散在)の実見調査；(c)立像・画像史料が位置する「場」(ギリシア各地)の現地調査。

本研究は3カ年で発展的に進行する：第1

年度は、文献研究と立像・画像史料の収集(所蔵地での現物の撮影等)と分析を進め、本研究の基盤を固める；第2年度は、文献研究、史料収集分析の継続と共に、「場」の現地調査を展開する；最終年度は、先行年次の内容を補足・拡充する活動を進めると共に、国内外での成果公開、討論を踏まえ、単行本の刊行を準備する。

### 4. 研究成果

先ず、古典期の民主政に先立つアゴーンについて、公の場での意思決定の法則性の一部を解明することができた。これは従来は当該の問題に関する史料としてはあまり扱われてこなかった叙事詩の分析から明らかになったものである。発言の強制力は、前例や先行事象をいかに巧みに利用するかという点に依存する部分が多い。その際、古代ギリシアの場合、古代エジプトと比べて、発言者が直接体験した具体的な出来事であることが重視される傾向がある。この点で比較的方法によりギリシアの特性をより明確にすることは今後の課題である。

また、運動競技については、単に肉体的な優劣だけではなく、倫理的・思想的問題や社会的地位の表現ともなる。墓碑などにおいては、それが図像的表現の技法に反映してくる。

図像資料にみるアゴーンとして、調査の中心に据えたのは墓碑浮き彫りである。古代ギリシア、とりわけアッティカ地方では、故人の生前の姿を浮き彫り等で表した墓碑が建立された。なかでもアルカイック期に好まれたのは兵士像とアスリート像である。女性像が登場するのは、現存資料で確認できる限り、古典期以降であるため、今回の調査対象には含まれていない。

アルカイック期の墓碑に表された男性像を整理した結果、以下のことが明らかになった。すなわち、上述の兵士像、アスリート像の他、当時の墓碑には、神官やいわゆる市民像も見受けられる。そのうちアスリート像は前560年頃に成立していたが、これ以外の3種は、それよりも30年ほど成立が遅れ、前530年頃から墓碑に登場するようになった。

アルカイック期のこうした状況を鑑みるに、重要なのは故人の記念像としてのアスリート像の図像および意味の変遷の把握ということになる。アスリート像だけが表現された時代と、兵士像や市民像など複数ある中の一主題としてアスリート像が表された時代では、この図像が担った意味が変化したことが想定されたわけである。

結論としては、第一に、アスリート像を表現した墓碑の被葬者は、おそらくどの時期においても天逝した男性であった可能性が大きいことが挙げられる。墓碑図像のレポーターがアスリート像に限られていた時期であってもこれは当てはまる。墓碑の全てに故人像が表されたわけではなく、天逝した故人

の墓碑に限って図像表現がなされたと考えられるのである。第二に、墓碑の図像表現が拡大した前6世紀末になると、アスリート像は被葬者の若さや幼さを強調する図像に変化した。アスリートとはいっても、競技者ではなく、体育場に通う少年として、あるいはさらにこれに、当時の貴族の風習であった少年愛の「若衆」としての特徴が加味された図像が成立した。このことから、前6世紀の間に、アスリート像が若く逞しい身体の持ち主という意味から、高貴な身分の若者の示唆へと、役割を変化させたことがうかがえる。

なお、これらの研究成果の一部はオーストリアの国際学会で発表され、英語論文として公開されており、国際的な成果発信も行われている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

高橋秀樹「危機にある英雄たちの諸発言～『イリアス』第XI書に見る強制(強請)行為～」、『資料学研究』Vol.13,2016年03月,pp.16-37. 査読有.

小林日出至郎「『イリアス』におけるメロスに関する研究—神々と英雄の関係性の観点から—」、『体育哲学研究』、第46号、2016年、査読付、印刷中

田中咲子、「前6世紀末アッティカの墓碑におけるアスリートの表象」、『西洋古典学研究』64号, pp.1-14, 査読有.

高橋秀樹、「斥候をめぐる対話群～『イリアス』第X書に見る強制(強請)行為～」、『新潟史学』(査読有), Vol.73,(2015) pp.21-48.

高橋秀樹、「アガ멤ノンの発言の失敗～『イリアス』第I書に見る強制(強請)行為～」、『資料学研究』(査読有)12号, pp.14-32,(2015).

Emiko Tanaka, Athletendarstellungen auf Grabstelen spätarchaischer Zeit, G.Grabherr (ed.), Akten des 15. Österreichischen Archäologentages in Innsbruck 27. bis 1. März 2014 (2014年に催された共同研究会の成果を現在印刷中。) 査読無

高橋秀樹、「ゼウス神とヘクトルの卓越性～『イリアス』第八書に見る強制(強請)行為～」、『新潟史学』(査読有) Vol.72, pp.35-57,(2014).

高橋秀樹、「ヘクトルとアイアスの一騎打ちをめぐる～『イリアス』第I書に見る強制(強請)行為～」、『資料学研究』(査読有) Vol.11, pp.35-55,(2014).

田中咲子, 大場瞳美, 嘉藤稜子, 「美術教育における石膏像の活用:《うちの・いえ・ギリシャ》の活動及び制作記録」, 『新潟大学美術教育研究会紀要 コンコルディア』(査読無) 33号, pp.25-32 (2014).

高橋秀樹、「死に向かうヘクトルをめぐる人々～『イリアス』第I書に見る強制(強請)行為」, 『新潟史学』(査読有) Vol.69, pp.28-45,(2013).

[学会発表](計8件)

Emiko Tanaka 'Diskus und Speer - die Darstellungen der Pentathleten auf Grabstelen', 16. Österreichischer Archäologentag, (25 - 27 Februar 2016) 第16回オーストリア考古学会2016年2月27日 Universitaet Wien ウィーン大学(審査無し)

田中咲子「アリュバロス・タイプの盛衰アルカイック時代の墓碑における運動選手像の変遷」第66回日本西洋古典学会(2015年6月6-7日)2015年6月7日首都大学東京(審査有り)

田中咲子「石膏像解体 - ギリシャ彫刻史の観点から」平成26-27年度新潟大学旭町学術資料展示館企画展「ギリシャ彫刻 NEO」関連シンポジウム「石膏像のこれから: 今日美術における模写・模倣再考」(2015年4月11日)2015年4月11日新潟大学(審査無し/企画者)

田中咲子, 研究報告「自らの死を悲しむ死者たち 古代ギリシア人の死のプロセスと墓碑図像」, アルゴ会第33回研究会, 早稲田大学,(2014.6.29).

田中咲子, 研究報告「賛美と哀悼: ギリシアの墓にみる死の受容プロセス」, 名古屋大学西洋古典研究会パレーシア例会, 名古屋大学,(2014.7.19).

Emiko Tanaka, 招待発表 'Lamentation and Celebration: Iconography at graves in archaic and classical Athens', International Symposium "The Processes of Dying in the Ancient Greek World", Kyoto University, September 1st, 2014.

[図書](計2件)

Emiko Tanaka, Toshihiro Osada, Akiko Moroo, Rui Nakamura, Tomoyo Nakamura, Mariko Sakurai, Chieko Shinozuka, Akira Mizuta, Phoibos Verlag (Vienna) The Parthenon Frieze - The Ritual Communication between the Goddess and the Polis (2016pp. 175 (担当箇所 pp. 119-138. 'The Concept of Space in the Parthenon Frieze')

田中咲子、金井直、永吉秀司、木本諒、大学旭町学術資料展示館『石膏像のこれから：今日の美術における模写・模倣再考：平成26年度新潟大学旭町学術資料展示館企画展「ギリシャ彫刻 NEO」関連シンポジウム記録集』2016年1月全101頁(担当箇所 pp. 1-8, 23-49) 新潟大学

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 秀樹 (TKAHASHI, Hideki)  
新潟大学・人分社会・教育科学系・教授  
研究者番号：80236306

(2) 研究分担者

小林 日出至郎 (KOBAYASHI, Hideshiro)  
新潟大学・人分社会・教育科学系・教授  
研究者番号：10195802

田中 咲子 (TANAKA, Emiko)  
新潟大学・人分社会・教育科学系・准教授

研究者番号：00641101

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号：